

令和2年度国立市まち・ひと・しごと創生懇話会 議事要旨

1. 日 時 令和2年8月28日（金）19：00～20：20
2. 場 所 国立市役所1階 東臨時事務室
3. 出席者
(委員)
細野委員、荒木委員、田中委員、井田委員、榎本委員、竹内委員、磯部委員
(事務局)
政策経営部長 宮崎、 政策経営課長 簗島、
政策経営係長 佐藤、 政策経営係 齋藤
4. 傍聴者 無し
5. 議 事 (1) 座長あいさつ
(2) 第1期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について
(3) 第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(4) 今後の予定について
6. 配布資料 ・資料No.1 第1期総合戦略 数値目標進ちよく状況一覧
・資料No.2 第1期総合戦略 重要業績評価指標（KPI）・主要事業等
進ちよく状況一覧
・資料No.3 国立市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略（第1期）
・資料No.4 国立市第5期基本構想第2次基本計画
（第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略）
・資料No.5 国立市第5期基本構想第2次基本計画（2次原案）に対する
まち・ひと・しごと創生懇話会委員の意見

7. 内 容

(1) 座長あいさつ

□ 細野座長より以下のとおり挨拶があった。

新型コロナウイルス感染症によって社会全体に様々な影響が出ており、社会が大きく変革していく可能性がある。予測のつかないことが起こる昨今ではあるが、中長期の目線で「国立らしさ」について考えていきたい。

(2) 第1期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について

事務局より配布資料 No. 1～No. 3 に基づき説明を行った後、委員内で意見交換を行った。

委員

- 評価において、基準値に対しどの程度の範囲までを「C（横ばい）」としているのか。少しでも下がった場合に「D（低下）」となるのでは現場の職員はやりきれないのでは。

事務局

- まず、設定した目標値に対して達成か未達成かはシビアに評価している。未達成の中で上昇・横ばい・低下に分けているが、「基準値に対して〇%」のように明確な区分けはしておらず、ある程度主観的に分類している。

委員

- 「起業サポートプラン補助事業」は進捗があったようだが、「職住近接」はコロナ禍においても有意義なことである。国立市は都市計画図を見るに南部の準工業地域も生産緑地指定がかかっているなど企業を誘致できる場所が確保しづらいと見受けられるが、3 駅の周りを有効に活用し企業を誘致することで、国立ブランドの向上にもつながる。

委員

- 基本目標3（都市としての魅力「国立ブランド」を高め、発信する）の数値目標について、「住み続けたい市民の割合」はインナーブランディングに基づいた市内に住む人々の評価である。
一方、新型コロナウイルス感染症の影響で人々のライフスタイルが変化したこともあり、市外の人々が国立市をどう見ているかを測る指標が「休日の滞在人口」で良いのかは検討されたい。

委員

- 定量的な指標と定性的な指標とが混在している。意識調査などは同じ対象に継続的に調査しないとぶれが生じる。定性的な指標は参考値程度に扱うなど、指標をうまく使い分けることが必要。

委員

- 「谷保の原風景保全事業」について、農の営みが残る原風景の保全に向けた動きは喜ばしいことである。東京都の「農の風景育成地区」という制度があり、先日調布市の深大寺・佐須地域が多摩地域で初となる指定を受けた。機運の向上を図る意味でも、国立市も本制度の指定をひとつの目標としてみてみてもいいのではないかと。

委 員

- 南部地域は戸建住宅の建設が進むにつれ、原風景と相反する景観が形成されてしまうことに危機感を覚える。都市的な生活の中に農や自然がある風景は、コロナ後に価値を生み出すと思われる。国立市は大学通りを中心とした街並みのイメージを持たれるが、南部の自然に価値を見出す声が、特に若い世代から聞かれる印象がある。国立市のひとつの価値として保全に取り組んでいく必要がある。

委 員

- コロナ禍の影響として、今後特殊詐欺なども含め治安の悪化が懸念される。国立市の特殊詐欺の実態はどのような状況であるか。

事務局

- 特殊詐欺について、件数はここ数年横ばいである。警察の話によると、国立市は件数に比して被害額が大きい傾向にあるようだ。

委 員

- 国立市は他自治体に比べてかなりユニークな政策が多い。第1期の総合戦略としても、比較的良好に推進してきたと総括してよいのではないか。

各委員より賛同の声あり。

(3) 第2期国立市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局より配布資料 No. 4、No. 5 に基づき説明を行った後、委員内で意見交換を行った。

委 員

- 例えば「1階に店舗を入れれば高層の建物を建てられる」というインセンティブがあれば、やはりそのような街並みに自ずとなっていく。国立ブランドの向上を図るにあっても、地区計画や用途地域等を用いて街並みをうまく誘導していくことが求められる。

委 員

- 東八道路がさくら通りにつながり、また南武線の立体交差によりさくら通りが立川市側に抜ければ、相当な交通量が見込まれる。その際に地区計画等で街並みを誘導しなければ、沿道に郊外型の大型店舗が乱立するような事態になりかねない。
数年前から地域で協議会を作り、URの更新等も考え合わせながら富士見台のまちづくりを検討しているところである。

委員

- 旧国立駅舎が再築されたが、現状としては回遊性が乏しい。駅周辺だけのにぎわいとなってしまうまいよう、何か回遊性をもたらす仕掛けが必要。

委員

- 「空家対策事業」において、空家等対策特別措置法に基づき特定空家等に指定された空家には行政が関与できるほか、税制上も優遇が受けられなくなることとされているが、国立市においてはそのような措置をとるための基準等を定めているのか。

事務局

- 「国立市空家等対策審議会」において基準等について検討中。すぐに特定空家等に指定するというよりも、基準を設けることで所有者に協力いただきやすくなる効果を期待している。

委員

- ファミリー層は子どもが小学校に上がるくらいに広い間取りの家へ住み替えるものがあるが、そのときに国立市の家屋価格の高さから人口が流出してしまうことがある。その対策として空家・空室の利活用は有効な可能性を有している。定住人口が増えれば消費も増え、市域の活性化につながる。

委員

- 空家については、市としても外部不経済の解消だけでなく、利活用のあり方についても今後計画を作って進めていきたいと考えている。

委員

- コロナ禍によって市内で過ごす時間が増えた人も多いと思うが、国立市の図書館は充実して過ごしやすい施設とは言い難い。「公共施設マネジメントの推進」について、今後は地域ごとに拠点となる施設が配置されるように公共施設の再編等を行っていくと聞いており、特に富士見台地域のまちづくりには大変期待している。図書館機能のあり方も向上すると良いと思う。本のジャンルによって図書館が各地域に分散するかたちも面白いかもしれない。市民にとって楽しめる居場所になっていくと良い。

委員

- 市としては南武線の谷保駅・矢川駅周辺のまちづくりを進めていきたいと考えており、その中においても図書館などはひとつのテーマになり得る。

委員

- 国は「GIGAスクール構想」を打ち出し、全児童生徒にタブレット端末を配布するこ

ととしているが、これは当然ネットワーク環境の整備と併せて行われるべきものである。児童生徒の家庭及びまちなかにWi-Fi環境を整備することを検討されたい。市内の回遊性の強化にも資すると思われる。

事務局

- 「GIGAスクール構想」の推進については、学校内のネットワーク環境の整備も含め当市でも予算化し進めていく。また、コロナ禍における家庭学習への支援として、家庭にネットワーク環境が調っていない子ども達のためにルーターを貸与することとなっている。さらに今後同じような状況があった場合にも家庭に貸し出せるよう、市としてルーターを確保しておく予定である。

委員

- 第2期総合戦略において、「目指すべき方向性」が6項目示されており、いずれも進めるべき内容であると思うが、特に目玉として考えているものはどれか。

事務局

- いずれも重要視しているが、総合基本計画に3つの重点項目を定めており、それと照らし合わせると(1)少子化の抑制に向けた出産・子育て支援の促進、(4)文教都市としてのブランド力の向上がより重点的に進めるべきものと考えている。
また、人口増を目指すうえでは(5)テレワーク等の環境変化を捉えたまちづくりの推進も重要である。

委員

- 確かにどれも重要だと思うが、重点的に進めるポイントを絞って発信することで、内外の機運も高まりやすく、戦略としてもより推進力を得られるのではないか。面白い事業をいろいろやっても、伝わらなければもったいない。

委員

- 現在は幼児教育、特に非認知能力の向上のための施策に力を入れているが、この施策をマスメディアを通して発信していくのは感覚的になじまない。むしろSNSのように知っている人同士の信頼を通してつながり、口コミ等を介してじわじわと広まっていくような情報発信の方が親和性が高いと感じている。

委員

- そのような伝え方も十分あり得るが、とはいえ口コミをどのように広めていくか等は検討されたい。

(4) 今後の予定について

1. 議事要旨については要点記録で委員に確認後、市ホームページにて公開予定。
2. 第1期の会議は今回まで。第2期についてもご意見をいただくような場を年1回程度設けていきたいと考えている。

以上